



今回のガイド  
まえた みよ  
前田 三代さん

押切地区出身。仙台からUターンし、三川町観光協会に勤務する。「三川の魅力は庄内をすべて見渡せるところ」。

三川町は「暮らしの町」という印象が強い。鶴岡と酒田の間にあり、大規模なショッピングセンターや庄内全体を管轄する公共機関などがそろっている。この町を訪れる目的はほとんど日常の延長にある。

しかしひとたび車を降りて町を歩くと、あちらこちらに石碑や社が残されていることに気づく。見逃しそうなほどさり気ないが、そこには町の歴史や文化が刻まれている。今回はうららかな春の陽に誘われるがまま、小さな歴史散歩に出発した。

スタートは、旧国道7号(県道鶴岡広野線)沿いの横山地区。最初に現れたのが横山八幡神社だ。「この絵を見てください」。前田さんが指さしたのは、社殿の中に掛けられた絵。「能を舞っているでしょう。実は200年ほど前に、櫛引の伝統芸能として知られる『黒川能』が三川の対馬地区に伝えられていたんです」。当時は「対馬能」と呼ばれ、最盛期には黒川能と競演するほ



# 第7回 庄内みどころ再発見

## きらきら三川 春風さんぽ

Supported by 庄内広域行政組合

どの腕前だったという。謡は現在でも地区で引き継がれているそうだ。

### 絵画や寺社が物語る 三川町の素顔

八幡神社近くの民家に立て看板を見つけて立ち止まった。赤川の蛾眉橋の架橋に投資した菅原さんのお宅だと書かれている。明治6年に橋が架かるまで、ここから鶴岡へは渡し船で往来していたが、運賃が高く庶民は困窮していたという。架橋が今でも偉業として語り継がれていることに、当時の人々がどれほど助けられたのが伝わってくる。

勝練寺に立ち寄って三川出身の仏画家・鶴峰による優美な鶴の襖絵を拝見した後、すぐ裏の赤川へと向かう。土手には、庄内の言葉で「ばんけ」と呼ばれるふきのとうが顔をのぞかせ、川の水面はやわらかな南風を受けてきらきらと輝いている。もうすっかり春が来ていた。「4月の半ばになると赤川沿いに菜の花が咲いて、とてもきれいなんですよ」前田さんが微笑みなが



庄内平野の真ん中に位置する三川町は山形県で唯一、山のない町。広々とした田園風景の中に点在する文化財を訪ね、町の歴史に出会いました。



横山八幡神社に飾られている、黒川能を描いた絵。



よく見ると路傍の石に庄内の地名が! この辺りは海道が交差するため交通の要所とされていた。



勝練寺の襖絵には躍動感に満ちた鶴が描かれている。



# 耳より三川かわら版

町歩きがさらに楽しくなる  
三川町の訪問ポイントをご紹介します



**山の神のケヤキ**  
押切下町の県道鶴岡広野線沿いにある  
推定樹齢350~400年の大ケヤキ。傘状に  
枝を張り、その風格は実に雄大。



**三川Tシャツ**  
今年、三川誕生60周年を  
記念して制作。



**マイデルの菜の花メニュー**  
三川町の花は菜の花。栽培も盛んで、菜種油のほか菜の葉を使った  
アイスやシフォンケーキなどもある(シフォンケーキは要予約、☎はんど  
めいど糸蔵 ☎0235-66-3975)。



**食事処マイデル**  
道の駅庄内みかわにある食  
堂。三川の郷土料理「里芋  
だんご」や三川産の米粉  
100%の「米っ粉うどん」など、  
手作りのおいしさいっぱい。  
☎0235-68-2500



お城わたい小学校



四つ葉のクローバー発見!



田んぼにナスカの地上絵?

## みかわ四季と笑顔の フォトコンテスト 2015

平成27年度の三川誕生60周年を記念して開催。三川町の  
四季の風景やイベントを撮影  
して、豪華賞品を狙おう!

【応募期間】  
平成27年10月30日(金)まで  
☎三川町観光協会  
☎0235-66-4656



平成十七年五月五日  
獅子舞講中 同

## 三川町イベントガイド

### 横山八幡神社 獅子舞

横山に古くから伝わる行事。  
地元住民による獅子舞の  
奉納が見られます。

日時 5月3日(日)  
場所 横山八幡神社

### 菜の花まつり

春の風物詩として定着して  
いる町の一大イベント。菜の  
花娘をモデルにした撮影会  
なども行われます。

日時 5月5日(火・祝)  
場所 いろり火の里

### 春の野草を観る会

庭園のユキモチソウやシラネアオイなどが  
見頃を迎えます。5日(火・祝)には10時~  
15時にお茶会も開催されます。

日時 5月3日(日)~6日(水)  
場所 アトク先生の館

問 アトク先生の館 ☎0235-66-5040

### アトク芸術の夕べ

津軽三味線の演奏に合わせて民謡歌手  
が日本の心を唄います。  
※内容が一部変更になる場合があります。

日時 6/13(土) 18:30開演(18:00開場)  
場所 アトク先生の館

問 アトク先生の館 ☎0235-66-5040



「アトク先生の館」の縁側はケヤキの  
一枚板。磨き込まれたツヤが美しい。



油搾りをご指導くださった大川京子  
さんと。搾って2~3日経つと不純物  
が沈殿して黄金色の油になる。

## シラサギも憩う 江戸時代からの名園

日も傾きはじめて頃、私たち  
は最後の目的地「アトク先生の  
館」へと向かった。ここは昭和  
初期に建築された阿部徳三郎氏  
の私邸で、阿部氏が生前、地域  
の人から「アトク先生」と呼ば  
れていたことから命名された。  
設計は皇室関係の建築物にも携  
わっていた宮島佐一郎氏が手が  
け、威風堂々として大正ロマン  
の趣がある。邸内はケヤキの一  
枚板の長い廊下や玉目の杉板を  
はめ込んだ建具など、細部まで  
上質な素材が使われている。縁  
側の向こうに広がる庭園は、江  
戸時代元禄期に1千両の巨費を  
投じて各地から名木、珍石を集  
めて築造したといわれ、庄内屈  
指の名園として知られている。  
館の中は上品で落ち着いた居  
心地が良い。地元の人たちに  
親しまれていたアトク先生もき  
つと、春の陽のように温かな方  
だったのだろう。

編集・文 松本典子 写真 間真由美  
協力 写真提供 三川町観光協会

ら教えてくれた。  
赤川は横山地区の脇をL字形  
に流れている。この地形は敵を  
迎え撃つのに都合が良いと、16  
世紀から、1681年に廃城令  
が出されるまで、横山城と呼ば  
れるお城が存在したそう。残  
念ながら城趾の面影を残すもの  
はほとんど残されていないが、  
江戸末期の書物では、その規模  
は東西72メートル、南北90メー  
トルと伝えられている。本丸が  
あったとされる場所には現在神  
社が建ち、朱色の鳥居をくぐり  
抜けた先にはお稲荷様が鎮座し  
ている。そのすぐ裏が、いつも  
車で通っている旧国道7号だっ  
た。ここにお城があったなんて。  
参道の松は立派な大木で、いま  
で気づかずにいたことに何だか  
申し訳なくなった。  
横山地区を出て、道の駅庄内  
みかわの「マイデル」へ。ここ  
では菜種油搾りが体験できる。  
菜種の品種名は「キラリボシ」。  
黄色い花を星に見立てた愛らし  
い名前だ。機械のじょうご部分  
に種を入れると、中で圧搾され  
て油と油かすに分かれて出てく  
る。およそ5分で1キロの種か  
ら400mlほどの油が採れた。



横山城趾の大部分が今では  
民家や畑になっている。